

■議事概要

○日時：平成30年10月5日（金）17時30分～20時00分

○場所：生田緑地整備事務所 ○参加者：14名

○議題：1. 第3回自然会議勉強会のご案内と告知範囲の検討 2. 奥の池水質改善に向けた取り組み 3. 初山周遊散策路地区・植生管理計画について 4. つつじ山B1～B3地区植生モニタリング報告とB1・B3地区への実生種移植について 5. 報告事項

■今回の協議事項

1.第3回自然会議勉強会のご案内と告知範囲の検討

●勉強会（公開講座）の開催につき、お声がけする範囲をどの程度にするか等の確認を行った。

日時：11月18日（日）午後2時～4時 場所：多摩区役所 11階会議室 定員70名

2.奥の池水質改善に向けた取り組み

●かわさき自然調査団より奥の池（下の池）の水質改善を目的とした3種の対策案の提案がなされた。

①ビニールホース等により上の池からサイホン式で水をくみ上げ、下の池の美術館側に送り込み、これにより細長い形状の下の池の水の流れを上流から下流へと一方向に流す。

②上の池中央部の浅瀬にヨシを植えこみ、富栄養化の要因となる養分を吸収させ、富栄養化を防ぐ。

③落枝などを片づける。

これら3種の対策案について、専門家と奥の池を活動の場としている団体（生田緑地の谷戸とホトケドジョウを守る会）の意見を伺うことを前提に12月～2月の期間に行うことで合議した。

○会議後の調整結果の報告。

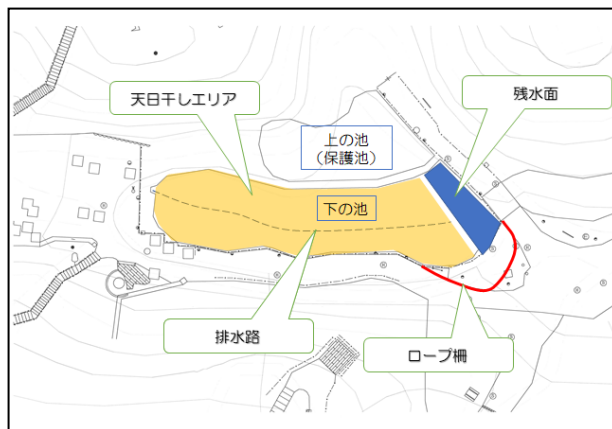
10/19(金)に県水産技術センター内水面試験場の勝呂研究員に相談のところ、悪臭の原因は水底土に嫌気性細菌が繁殖して起こることなので、この規模の広さのある池では掻い掘り（かいぼり）或いは日干しが欠かせないという事だった。

11/5（月）現地にて①の「サイホン式送水」は管理が難しく今回保留。掻い掘りは、費用高額で毎年実施は困難。日干しは、閑散期の冬期であれば2ヶ月位は可能であり①の修正案として集約した。同日、生田緑地の谷戸とホトケドジョウを守る会榎本氏と意見交換を行い、生物調査・保護活動終了後であれば、棲息する生物に対する影響も殆ど無いとの意見で集約された。

11/9～13に自然会議会員間にてメール審議を行い、

「生田緑地の谷戸とホトケドジョウを守る会の通常の

活動に合わせて、下の池の排水を開始し、下の池の落枝等の除去、生物調査、底土の日干しのための諸作業を指定管理者、調査団などが協力して実施し、2月末まで日干しを行う。日干し完了後、ヨシの根茎の植込み、岡本美術館側からの水の放流を開始する。」ことを決定した。



奥の池 日干し作業図面

【奥の池（下の池）の生物調査、保護、池底土の日干し作業の予定】

平成30年12月16日生物調査・保護作業を実施後奥の池の水を抜き、平成31年2月末日まで、池底土の日干しを実施。奥の池の残水面にて生物を保護し、その他は、水のない状態となります。

3.初山周遊散策路・植生管理計画

●整備事務所より初山周遊散策路・植生管理計画案を提示、これをたたき台に検討・ヒアリングが行われた。

1. 9種のブロック毎に植生調査報告と植物・生物情報、環境情報、地形や外周環境の特性の説明が行われた。

2. A～Eは落葉広葉樹林。F～Iはそれ以外となっている。

A：ケヤキ群落 ケヤキ優占の落葉広葉樹林。自然遷移林として残す。

B～E：コナラ群落 コナラ優占であるが林床部の特性により4種ある。林床部の管理によりキンランなど

の植生の回復等、多様性の改善が期待できる。侵入おびただしいモウソウチクについては管理対象として多様性ある林地を目指す。

F：スギ・ヒノキ植林 植林地であるが手入れは行き届いてはいない。遷移林として残す。

G：モウソウチク林 モウソウチクが著しく逸出している。竹林として管理、景観を残す。

H～I：その他 人家に面した造園樹種・果樹などの植栽は残す。

●検討においては、以下のような質疑応答がなされた。

「管理主体となる団体はどこか？」⇒とんもり谷戸と指定管理者が協働する。

「隣接住人の了解は得られているのか？」⇒今後、お話をする予定。

「計画確定前に住人了解を得ておくべきでは？」⇒了解。

「人家に近いスギ・ヒノキ林については、斜面下の住宅へ影響を及ぼさないような管理を行う」。

これらを踏まえ次回継続協議とする。



植生計画案

4.つつじ山皆伐地区 モニタリング報告とB1・B3地区への実生種移植について

●つつじ山A03-B地区の植生改善に向けて、A03-B1～B3地区の植生調査を行った結果、ヤマグワ・アカメガシワ・ユリノキ・クサギ・その他などはあったが、ヤマザクラなどの花樹の実生種はなかった。提案①長者穴横（北口東側）の竹林皆伐跡地にてコナラ林縁部にヤマザクラの実生が6本ほど発生しており、このうち2本程度をB1地区に移植したいが如何か？（雑木林を守る会）

⇒機械で全伐ではなく、残すべき種を残しながら、手刈りで選伐するしかない。その体力が無いならば、一旦皆伐後、翌春に選伐。長者穴横（北口東側）の管理計画もなく（数本しかない）ヤマザクラの移植はできない。明らかにそのままでは、枯れてしまうであろう1～2年生の実生種についてはその限りではない。⇒了解した。

提案②ユリノキ倒木時のつつじ跡地が空き地になっており、ここに伝統工芸館横のオオモクゲンジの実生苗を移植したい。成長すれば春のサンシュと秋のオオモクゲンジで黄色い花が楽しめる。夏休み期間の管理については、指定管理者と連携して作業の支援を仰ぐ。⇒オオモクゲンジの移植に異論はなし。

今後、「実生種捕植のためのガイドライン」を検討する必要がある。

報告事項

●日本民家園が行う樹木調査について（日本民家園）

文化財建造物である日本民家園を半永久的に保存維持してゆくために環境整備が欠かせない。台風24号で警備本部建屋が損傷を受けた。開園50周年を経て、抜本的な対策が必要になってきたため、陽当たり、風通し等の改善に向けて、建物から6mまでの範囲を中心に毎木調査を行う。平成30年度中に規模を把握し、剪定等の施工計画立案にあたっては、改めて自然会議の意見を伺う。

●秋の講演会「戦国時代の枳形山周辺」開催のご案内（日本緑化工学会 生物多様性緑化研究部会）

日時 10月7日（日）10：00～12：00 場所 整備事務所2階 講演：中西望介氏

●ファイル共有サービスの事例紹介（指定管）

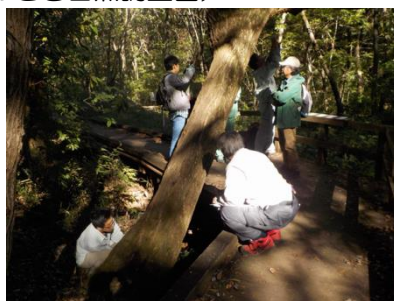
自然会議会員用の会議資料共有ファイル案のご案内⇒了解。

●コナラのナラ枯れ対策の必要性について（かわさき自然調査団）

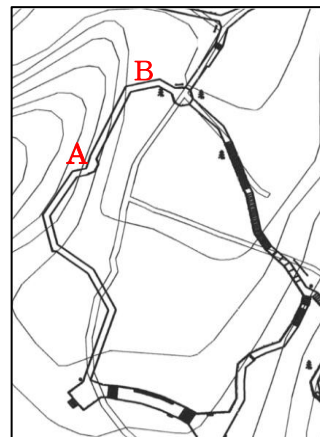
ハンノキ林にてナラ枯れの兆候のあるコナラが2本発生している。調査・検討いただきたい。⇒昨年度、クイムシ被害があったが、ナラ菌媒介のカシナガクイムシではなかった。隣接する横浜市でも発見例が多数出ており、早急に神奈川県に連絡を取る。（整備事務所）

○会議後の調査結果

11月2日神奈川県の調査班による調査を受け、ナラ林に重篤な影響を与えるカシノナガクイムシの幼虫・成虫ともに発見された。



調査木Aの穿孔を調査



ハンノキ林

その他

・アライグマ捕獲状況の報告（指定管）

・スズメバチ営巣対策及び枯死木等の剪定・伐木判断のための確認ルールのプロポーザについて（指定管）

⇒これについては、次回自然会議にて協議することとする。

■今後の予定

・11月18日に第3回自然会議公開講座。